

圏外のアンテナ



[大選手団]の巻

11月23日、24日の2日間、埼玉県羽生市で4度目となる「ゆるキャラサミット」が開かれた。

水と緑に恵まれた羽生水郷公園に、452体ものキャラが集結。一堂に集まったマスコットの数の「ギネス記録」を塗り替えた。

来園者は両日で約45万人。キャリーケースを引いた大人の姿も多い。

運営はよく練られ、例えば人気キャラ「ふなっしー」のステージに向かうつもりで気がつけば、全国から出店されたB級グルメブースで舌鼓を打ち、他のキャラと触れ合っている…そんな動線が工夫されていた。

このイベントに、福島からは、地元埼玉、東京、千葉に続く、総勢19体のキャラ大選手団が参加した。

いわきの「なしポチ」が長い脚で飛び跳ねている。

ステージでは、「かぼまる」が、金山町と羽生市は姉妹都市だと猛アピール。

目立っていたのは、矢吹町の「やぶきじくん」。どう猛に翼を広げて人気キャラと対決したり、ダンスしたり。「あの鳥、ユニーク！」と、そこかしこでささやかれていた。

大会のメインイベント「ゆるキャラグランプリ2013」の順位発表では、大きな頭を持つ復興アイドル「あたまがふくしまちゃん」が、初出場全国16位という快挙！

だが福島のキャラたちが集めたのは、得票だけではない。目を輝かせて駆け寄る子どもや、ブースを探して特産品を求める大人たちの、うれしそうな笑顔である。

ご当地キャラに魂が入った時、それは日本の八百万（やおよろず）の神様と同じだと言った人がいる。

この日、羽生の秋晴れの空の下で繰り広げられていたのは、紛れもなく、人の童心を呼び起こす、神様たちのお祭りだった。

=2013年12月3日掲載=



人気を集める郡山市の「がくとくん」